

2021年度開講 研究演習Ⅰ選択案内冊子

～研究演習Ⅰ概要と選択手続について～

(2020.5.13 ver.1)

国際学部

【目次】

1. 「研究演習科目」とは	2	
2. 選考・定員	3	
3. 先修条件	3	
4. 「研究演習」所属クラス決定までの流れ	4	
5. 「研究演習 I 選択届」の記入・提出	6	
6. 各クラスの紹介	7	
1. 渥美 裕之	教授	8
2. 李 恩子	教授	9
3. 井口 治夫	教授	10
4. 于 康	教授	11
5. 王 昱	教授	12
6. 大石 太郎	教授	13
7. 木本 圭一	教授	14
8. 国宗 浩三	教授	15
9. 小林 敏男	教授	16
10. 櫻田 大造	教授	17
11. 志甫 啓	教授	18
12. 關谷 武司	教授	19
13. 高村 峰生	教授	20
14. 長友 淳	教授	21
15. 長谷 尚弥	教授	22
16. フンク ^{シエ} ・ホカ ^ー	教授	23
17. 寶劔 久俊	教授	24
18. 丸楠 恭一	教授	25
19. 三宅 康之	教授	26
20. 宮田 由紀夫	教授	27
21. 油井 美春	准教授	28
22. 尹 盛熙	教授	29
23. 吉村 祥子	教授	30

1. 「研究演習科目」とは

「研究演習科目」とはいわゆる「ゼミ」のことで、国際学部の専任教員が、自身の専門領域における題材を活用し、少人数教育を通じて「問題発見解決能力」の養成を行うための科目です。

開講される科目および卒業に必要な単位数は下表のとおりです。

【国際専門科目：研究演習科目】

○囲み数字は単位数

履修基準年度	開講科目	
	日本人学生 および 日本語を話す留学生	英語話者学生【注意事項(2)】 (English-based International Student)
3年	研究演習Ⅰ ④	Research SeminarⅠ ④
4年	研究演習Ⅱ ④ 卒業論文 ④	Research SeminarⅡ ④ Graduation Thesis ④
卒業必要 単位数	12単位	

3年次には「研究演習Ⅰ（または Research SeminarⅠ）」を履修し、興味のある事柄について研究を始め、教員の指導を受けて専門性を深めていきます。4年次には「研究演習Ⅱ（または Research SeminarⅡ）」「卒業論文（または Graduation Thesis）」を履修し、研究成果を論文にまとめていく過程で、研究調査・分析方法・論文の書き方などを身につけ、最終的に論文を完成させることを目的とします。

上記のとおり3年次から「研究演習」の履修を開始するためには、2年次のうちに所属クラスを決定する必要があります。そのための説明をこの冊子で行いますので、熟読して手続きを行ってください。

「研究演習科目」を履修するうえでの【注意事項】は以下のとおりです。

- (1) 卒業に必要な単位（12単位）は、「研究演習Ⅰ・研究演習Ⅱ・卒業論文」の組み合わせか、「Research SeminarⅠ・Research SeminarⅡ・Graduation Thesis」の組み合わせで修得しなければなりません。また、それぞれの科目の担当教員も同一でなければなりません。
- (2) 「Research SeminarⅠ」「Research SeminarⅡ」「Graduation Thesis」は原則として英語話者学生のみ履修可能な科目ですが、一般学生（日本人学生など）および日本語を話す留学生が定められた基準を満たす場合にも履修を認める場合があります。興味がある者は別途配布する「Research Seminar Selection Information Brochure」

を参照してください。

- (3) 「卒業論文」「Graduation Thesis」では授業は実施しません。論文を提出し、論文の評価を受けることにより合否が決定する科目です。論文作成の指導は「研究演習Ⅱ（または Research SeminarⅡ）」で行います。
- (4) 一旦所属した演習を変更することは認められません。ただし一度も授業に出席することなく3年次の春学期を休学した場合、決定は無効となり再度選択手続から行うこととなります。
- (5) 研究演習の担当教員の専門分野と、コース選択は関連しません。例えば、米中関係を研究したい学生が、「北米研究コースを選択し、中国経済を専門とする先生のゼミに所属する」といったケース等があります。
- (6) 新任教員の新規ゼミ開講や、教員の留学決定に伴う開講予定ゼミ変更の可能性があります。その際は「教学 Web サービス」にて「お知らせ」とともに、随時研究演習選択案内冊子を更新していきますので、国際学部ホームページより冊子をご確認ください。

2. 選考・定員

前のページに記載したとおり、「少人数教育」が「研究演習」の重要な要素であるため、各クラスには定員が設定されます。よって定員を超えたゼミでは選考が行われますが、原則として選考は「選択届」によって行われます。ただし本冊子後半の「各クラスの紹介」ページの「選考要件」欄に記載がある場合には、それも加味して行われます。

選考が行われる以上、「希望通りのゼミに決定しない場合がある」ことをご理解ください。

なお、「定員」は「次年度に研究演習を履修する予定の学生数」を「開講される研究演習のクラス数」で割った人数をベースに、多少の調整を加えて決定します（**関谷ゼミを除く**）。

3. 先修条件

3年次から「研究演習Ⅰ」の履修を開始するためには、以下の条件を満たさなければなりません。

一般学生(日本人学生など)	日本語を話す留学生	英語話者学生 (English-based International Student)
□ 在学期間2年以上(4学期以上) ※休学期間は含まない		
<input type="checkbox"/> 第1外国語初級 8単位以上 <input type="checkbox"/> 第2外国語初級 2単位以上 国際基礎科目 <input type="checkbox"/> 第1類(入門的科目) 4単位以上 <input type="checkbox"/> 第2類(基礎的科目) 8単位以上 <input type="checkbox"/> 第3類(基礎演習科目) 4単位以上 <input type="checkbox"/> 卒業必要単位に算入できる科目で、 上記以外に 6単位以上	<input type="checkbox"/> 第1外国語初級 8単位以上 (Japanese) 国際基礎科目 <input type="checkbox"/> 第2類(基礎的科目) 2単位以上 <input type="checkbox"/> 第3類(基礎演習科目) 4単位以上 <input type="checkbox"/> 卒業必要単位に算入できる科目で、 上記以外に 18単位以上	<input type="checkbox"/> 第1外国語初級 8単位以上 (Japanese) 国際基礎科目 <input type="checkbox"/> 第2類(基礎的科目) 2単位以上 <input type="checkbox"/> 第3類(基礎演習科目) 4単位以上 <input type="checkbox"/> 卒業必要単位に算入できる科目で、 上記以外に 18単位以上
□ 合計 32単位以上		

4. 「研究演習」所属クラス決定までの流れ

2021年度に3年生を(主な)対象として開講される「研究演習I」の所属クラス決定手続きは、2020年度中に以下のような流れで行われます。

1. <案内冊子の熟読>

本案内冊子をよく読む。

~~2. <説明会出席(春)> (2021年度開講説明会は、2020年度春学期には実施されません)~~

~~希望する教員の研究演習説明会(5月中旬から6月上旬にかけて実施)に出席し、演習の内容を理解する。~~

~~(いつ、どこで説明会が行われるかは、5月上旬に掲示。秋学期に留学する学生は必ずこの時期の説明会に出席すること。)~~

3. <説明会出席(秋)>

希望する教員の研究演習説明会(9月下旬から10月中旬にかけて実施)に出席し、演習の内容を理解する。

(いつ、どこで説明会が行われるかは、9月中旬に掲示。春学期に留学していた学生は必ずこの時期の説明会に出席すること。)

4. <選択届の提出①>

11月4日(水)から10日(火)16:50までに、第1志望研究演習を記した「研究演習I選択届」を国際学部事務室に提出する。当該期間に留学中の学生はメール添付にて提出する。(留学の事前講義での配布資料「中期・長期留学参加予定者への教務上の注意事項」で説明している「海外から研究演習I選択届を提出する場合の注意事項」を必ず確認のうえ提出すること。当配布資料は教学Webサービスのお知らせでも掲載している。)

5. <選考①>

11月13日(金)から27日(金)16:50までに、第1志望研究演習を記した「研究演習I選

択届」を国際学部事務室に提出すの間に、志望学生数が定員を超えているクラスの教員は選考を実施する。志望学生数が定員以下のクラスは全員を受け入れる。

なお、原則として選考は書類選考であるが、クラスによってはこの期間に面接等の選考が実施される場合がある。「研究演習 I 選択案内冊子」を確認のうえ各教員からの連絡に注意すること。

6. <選考①結果公表>

12月3日(木)9:00に、選考①の結果を掲示板および教学ウェブサービスの「お知らせ」にて公表する。

【備考】：この時点で所属が決定した学生は「11. 最終選考結果の公表」まで手続きはありません。

7. <選択届の提出②(未決定学生のみ)>

12月7日(月)から10日(木)16:50までに、所属未決定学生のみ、複数の志望クラスを記入する選択届(名称:「選択届」②(研究演習・RS共通) SIS Research Seminar I Application Form #2 (common form))を国際学部事務室に提出する。なお、募集を終了している教員には志望できません。教学 Web サービスにてご確認ください。

8. <選考②>

12月14日(月)から18日(金)の間に、各教員が書類による選考を実施する。

9. <選考②結果公表>

1月8日(金)9:00に、選考②の結果を掲示板・教学ウェブサービスの「お知らせ」にて公表する。

【備考】：この時点で所属が決定した学生は「11. 最終選考結果の公表」まで手続きはありません。

10. <所属未決定学生への対応>

1月上旬から1月中旬に、この時点での所属未決定学生の対応を行う。

11. <最終所属決定の公表>

3月上旬に、研究演習の最終所属決定を掲示板にて公表する

【備考】：先修条件をクリアした学生のみを研究演習の所属決定者とする。

5. 「研究演習 I 選択届」の記入・提出

スケジュール「4.」に記載のとおり、選択に際しては「研究演習 I 選択届」を国際学部事務室に提出する必要があります。ゼミ担当教員が選考に際して使用する最も重要な資料であるため、明確かつ詳細に記入してください。

「研究演習 I 選択届」は、この冊子と一緒に国際学部ホームページに掲載していますのでファイルをダウンロードして使用してください。

* 記入の際の注意点 *

- ・ 手書きは一切受け付けません。コンピュータでタイピング入力してください。
- ・ 「研究演習 I 選択届」の入力を始める前に、「自分の伝えたいことは何か」を確認してください。
- ・ その確認が終わったら、まずは下書き入力をします。下書きが完成したら、自分が読み手（先生）になったつもりで読んでみて、誤字・脱字はないか、言葉の選び方は間違っていないか、文章としてまとまりがあるか、自分の言いたいことが伝わるか、などを考えてみてください。
- ・ 必ず印刷プレビューで入力した選択届を確認し、文字が枠内に全て表示されているかを確認してください。若干であれば、自分で文字のフォントを小さくしても構いませんが、印刷すると枠内に文字が収まらない状態にならないようにしてください。すべての文章が読めるかどうかを確認してから提出するようにしてください。
- ・ この過程を経て、内容を十分に精査したうえで、提出用の「研究演習 I 選択届」（エクセルファイル）に入力し、原則両面印刷の上、提出してください（両面印刷が難しい場合は片面印刷でも提出可能です）。なお、国際学部 2 階図書資料室では両面印刷は禁止されていますのでご注意ください。
- ・ 文章を通して、自分の考えや思いを相手に正確に伝えることは意外と難しいものです。その点を理解したうえで、まとまりのある、読みやすい「研究演習 I 選択届」の作成を心がけてください。
- ・ **公平性を確保するため、選択届の再提出や、提出後の修正は一切認められません（留学先の時差等も考慮されない）ので十分にご注意ください。**

6. 各クラスの紹介

次ページ以降の「各クラスの紹介」には以下の事項について記載されています。

担当者 : クラスを担当する教員の氏名
⇒50音順で掲載しています。

研究演習のテーマ : 研究演習で取り扱うテーマ

研究演習の内容 : 研究演習での学習および教員が指導する具体的な内容

卒業論文の使用言語 : 卒業論文作成にあたり使用できる言語
⇒卒業論文を記述するにあたり使用可能な言語に関する説明です。
なお「研究演習Ⅰ・Ⅱ」の授業内では日本語が用いられます。

選考要件 : 「選択届」以外に選考において参考にすること、および選考において必ず行っていただくこと

志望者への伝達事項 : 当該クラスを希望する学生への要望および伝達事項

これらをふまえて次ページ以降の「各クラスの紹介」を確認し、
興味のある先生の説明会に参加して説明を受けたうえで、
11月の提出に向けて「研究演習Ⅰ選択届」を準備してください。

【注意事項】

現時点でゼミの内容が記載されていないクラスについては、原則として
「説明会にてゼミの内容、選考要件等を確認」するようにしてください。
(一部のクラスについては後日国際学部ホームページにクラス紹介が掲載
される場合があるので定期的にホームページを確認してください。)

担当者	渥美 裕之
研究演習のテーマ	グローバル化を背景とした日本の可能性
研究演習の内容	<p>グローバル化、特に経済のグローバル化の動きが加速し、その一方、日本国内では少子高齢化等により社会や市場の構造が変化中、今後、グローバルな成長や市場をどの様に取り込んでゆくかが、日本・日本企業の大きな戦略的課題となっています。</p> <p>この研究演習では、日本からグローバル、グローバルから日本の二つの大きな視点に立ち、日本・日本企業が持つ競争力や価値を再確認・再定義し、その競争力や価値を活かしてゆく為の方向性やあり姿を明らかにしてゆくことを目標としています。</p> <p>研究演習Ⅰでは、グローバル化の本質、日本・日本企業のグローバル化への対応を理解した上、グローバルな視点でとらえた日本・日本企業の持つ競争力や価値、それを展開してゆく上で必要な戦略や仕組み、解決すべき課題などについて考察します。その過程では、レクチャーに加え、ゼミ生がグループベースで個別のテーマを選び、関連情報を体系的に収集・分析し、可能性や課題を抽出したプレゼンを行い、それをベースにゼミ生相互に討議する取組みを行ないます。また、研究演習Ⅱで実施予定のフィールドワーク(*)の事前準備も行ないます。</p> <p>研究演習Ⅱでは、研究演習Ⅰの成果をふまえて各自が卒論を想定した個別テーマを選定し、それについて主体的なリサーチなどを行ない、考察を深めてゆくとともに、フィールドワークの具体的な準備や実施を行なう予定です。</p> <p>(*)この研究演習では、企業や現場のリアルな動き・変化などが理解できるよう、学外との接点を広げ、学外と連携したフィールドワークを行なう予定にしています。これまで山陰地方の経済団体、京都の自治体・企業、奈良の企業と連携の上、インバウンド観光振興や日本商品の海外展開に関するフィールドワークを実施しています。</p>
卒論の使用言語	日本語
選考要件	特に定めません。志望届をベースに選考します。また、選考の段階では面接は実施しませんが、志望を検討する過程で個別面談のご希望があれば、喜んで対応します。
志望者への伝達事項	<p>永年にわたって総合商社に勤務し、国内・外で企画開発関連のビジネスに携わってきました。そこで培った様々な実務経験・現場経験、及びネットワークなどを最大限に活かしながら、研究演習を進めてゆくと共に、これからの就活などキャリア開発についても、きめ細かいガイダンスや面談を行ないます。</p> <p>この研究演習は今年の4月で五期生を迎えます。ゼミ生が、研究演習の運営パートナーとして教員と一緒に、合宿やオフの時間も有効に活用し、双方向で活気のある中身の濃い“ゼミの場”を創り上げてゆく気概や意欲を期待しています。</p> <p>なお、検討の過程で何か質問などありましたら、以下までご連絡下さい。</p> <p>hiroyuki.atsumi@kwansei.ac.jp</p>

担当者	李 恩子 Eun Ja Lee
研究演習の テーマ	ジェンダー、セクシュアリティ、レイシズム、エスニシティ
研究演習の 内容	私たちの住む社会、世界のしくみ、文化、関係性、規範、想定されている価値観などなど、所与のものあるいは自明とされてきたものを、上記のキーワード（テーマ）の視点から再考する。そうすることで日常的に起こるさまざまな、現象、事件、事柄の捉え方、分析方法、そして問題の対処の仕方が変わってくる。
卒論の 使用言語	日本語、英語
選考要件	テーマに関連する社会問題に関心があること
志望者への 伝達事項	自分の考え、意見を積極的に共有できる学生を期待している。

担当者	井口治夫
研究演習の テーマ	グローバル化とアメリカ合衆国
研究演習の 内容	<p>アメリカ合衆国の社会、文化、政治、経済、外交・安全保障について学びながら、米国と関連する卒業論文を執筆していきます。ゼミ生は、読んだ文献を批判的に分析・検証する能力を身につけてもらうことを目指します。</p> <p>研究演習 I では、アメリカ合衆国の社会、文化、政治、経済、外交・安全保障に関する文献を読み進めて行き、この分野の知識を蓄積していきます。文献は日本語のものを中心に読んでいきますが、英語の文献も取り扱うことがあります。本ゼミではゼミ生が<u>自主的・積極的</u>に文献を読み、簡潔にまとめてゼミで発表する予定です。本ゼミを通じて多角的な視点を得ること、また、情報収集、要約、発表、討論などのスキルを磨くことを目指します。グループによるテーマ研究及びプレゼンテーション演習などを行い、論理的に説明できる能力を高めていきます。秋学期にはグループによるテーマ研究を行う予定です。こうした知的作業を通じて、ゼミ生各自は、自分なりのアメリカ合衆国と関連する卒論の切り口を発見していただくように指導します。3年次の学期末に提出するレポートは、卒論の少なくとも一部となることを想定しています。レポートには、教科書以外に複数の文献を積極的に利用していることが求められています。</p> <p>研究演習 II では、卒論テーマとそれに利用する複数の文献に関する報告を行います。ゼミ生は、発表のさい行われるゼミ生同士の討論を通じて分析力を高めていき、また、報告されたテーマに関する理解を深めます。</p>
卒論の 使用言語	原則として日本語です。ただし事情に応じて英語を可とすることを検討します。
選考要件	提出される志望理由書には、志望理由、ゼミでやりたいこと、将来進路、他にアピールしたいことを書き添えてください。下記も参照。
志望者への 伝達事項	<p>能力的に問題がなければ英語の文献も読んでいただきます。ゼミ生の要望などを勘案して学外からのゲスト・スピーカーを招いたりするなどの企画を考えます。他大学を含むほかのゼミとの交流も検討中です。</p> <p>出願者が多い場合、面接を行ったり、成績を考慮することとなる予定です。面接を行う場合は、その日時は私の研究室のドアの外に貼っておきます。</p> <p>欠席については、大学が指定する事前の届出・手続きが必要です。病欠については、3回目以降は、診断書を求める可能性が高いです。</p>

担当者	于康
研究演習の テーマ	(1) 日本語の誤用と習得および日本語教育に関する実証的研究 (2) ことばと文化との関わりに関する実証的研究 (3) 日本語の語彙や文法研究に関する言語学的研究
研究演習の 内容	本研究演習は、就職活動のサポートと指導を行いながら、卒業論文の作成に必要な理論知識、研究方法、卒業論文の作成方法などを学び、問題の発見力、分析力、解決力を磨き、卒業論文を完成することを目的とする。 (1) 日本語研究、日本語習得研究、日本語誤用研究、言葉と文化との関わりの研究が必要とされる基礎理論を学ぶ。 (2) 卒業論文の作成に必要な論文の書き方を習得する。 (3) 研究テーマを見つけ、研究の対象となるデータを集めて分析し、論理的に卒業論文を作成する。 (4) 自分のライフデザインを踏まえつつ、合理的な就職活動をすすめ、全員が就職できることを目指す。
卒論の 使用言語	日本語
選考要件	日本語の誤用と習得および日本語教育に関する実証的研究、ことばと文化との関わりに関する実証的研究、日本語の語彙や文法研究に関する言語学的研究に関心のある方で、日本語の正誤判断ができる高度な日本語の運用力を有する方ならどなたでも大歓迎です。
志望者への 伝達事項	

担当者	王 昱
研究演習の テーマ	グローバル企業における財務・経営分析
研究演習の 内容	<p>研究演習 I の前半では、企業経営と財務会計の基礎知識を学びます。後半では、グローバル（グローバル×ローカル）企業事例を用いて、企業分析の方法（主に財務諸表による分析）を習得した上で、海外・国内の上場企業事例を対象に比較分析を行います。最後に、企業に関する分析レポートを作成してもらいます。このような学習を通じて、グローバル企業の経営活動や財務諸表への理解を深めることを目的とします。</p> <p>研究演習 II では、ゼミ生各自で卒業論文のテーマを選定してもらい、演習 I で習得した分析方法を活かしながら、卒業論文を完成します。また、ゼミ学習の一環として、海外・国内の他大学との合同ゼミ（Workshop）を行い、リサーチ発表をする予定です。</p> <p>卒業論文およびリサーチ発表を通じて、企業経営及び会計の知識を用いて企業の経営・財務分析と今後の展望ができるような能力を身に付けることが期待しています。</p>
卒論の 使用言語	日本語
選考要件	書類選考によって行います。
志望者への 伝達事項	<p>経営学・会計学・簿記などの関連科目の単位修得が望ましいです。ゼミでの発表は日本語を使いますが、合同ゼミ（Workshop）の発表は英語を使用します。ビジネス・スキルとしての会計・パソコン・英語（ビジネス界の三種の神器と言われている）の学習・応用を一足早くこのゼミで始めましょう。</p> <p>注意事項： 演習担当者が 2021 年度秋学期に短期留学するため、2021 年度開講する研究演習 I は春学期に寄せて（春 2 コマ）開講となります。</p>

担当者	大石 太郎
研究演習の テーマ	地理学からみる世界
研究演習の 内容	<p>地理学は「地域差」に関心を寄せ、どうして地域差が生じるのかを明らかにしようとする学問分野です。そして、ある地域で顕著にみられる事象には、自然（環境）条件の制約をうけながらも、歴史・文化的要素や社会・経済的要素が反映されていると考えます。グローバル化がすすむ現代世界は、とすれば何もかも画一化されてしまっていると考えがちですが、現実にはさまざまな文化をもつ多様な社会で構成されています。世界は「人間文化のモザイク」、すなわち地球上には一つとして同じ地域は存在しない、というのが地理学の考え方です。具体的な研究テーマとしては、産業（例：ブドウ栽培、ワイン生産、観光・ツーリズム）、文化（例：食文化）、社会（例：エスニック集団の集住やホスト社会への適応）などさまざまなことが考えられます。</p> <p>そこで、研究演習Ⅰではまず文献講読により人文地理学の基礎を学び、さらに各自が関心をもつテーマにかかわる文献を紹介し、最終的には各自が卒業論文で取り組みたいテーマに関するレポートを作成します。研究演習Ⅱでは、各自が卒業論文のテーマを選び、中間報告をしながら、できるだけ統計資料や各自の調査で得られた資料の分析に基づく卒業論文を執筆します。</p>
卒論の 使用言語	日本語を母語とする学生は日本語に限ります。その他の言語を母語とする学生は相談によります。
選考要件	とくにありませんが、定員を超える応募があった場合には、面接（留学中の場合はそれに代わるメール連絡）を実施することがあります。
志望者への 伝達事項	<p>1) Word, Excel, Powerpoint をある程度使えることが期待されます。</p> <p>2) 卒業論文のテーマは柔軟に考えてかまいませんが、担当者は地理学研究者であり、その視点から指導されることを理解する必要があります。</p> <p>3) ほかの学生の研究テーマにも幅広く関心を寄せ、積極的にディスカッションに加わることが期待されます。</p> <p>4) ゼミは学生が創っていくものです。過去のゼミ生は切磋琢磨して卒業論文に取り組み、すごくよくなって卒業していきました。次年度のゼミ生も、研究発表会やゼミ合宿、懇親会などを主体的に企画し、かつ積極的に参加することが期待されます。ゼミ生相互の交流を深め、活発なゼミにしていきましょう。</p>

担当者	木本 圭一
研究演習の テーマ	企業分析とビジネスプラン
研究演習の 内容	<p>「会計をツールとして実践的に使いこなせるよう楽しく学ぶ」が研究演習の基本方針です。「関学・日本酒振興プロジェクト」のフィールドワークを通じて、会計学の他、経営戦略やマーケティングも学びます。実践を通じた技法修得はかなり効果的であるからです。</p> <p>また、ビジネスの世界で必須の技能である企業分析について、日本および主要国の上場企業のアニュアルレポートを題材に行います。企業分析の中心となるのは会計情報ですが、各国の文化・経済情勢なども分析の視野に入れながら進めていきます。</p> <p>さらに、ビジネスを深く考察し、経営戦略・マーケティング・会計を駆使するための題材として、ビジネスプラン作成も行います。ビジネスプランコンテストに応募することを通じて成果を確認します。</p> <p>そのため、起業に興味を持っているゼミ生も歓迎します。上記の諸取組を通じて、有益な示唆を受けてもらえると思っています。</p> <p>研究演習Ⅱでは、上記のテーマあるいは関連する領域で、各自が卒業論文を作成していくための演習（発表、質疑応答、指導）を行います。卒業論文の対象範囲は、上記の領域に掛かっておれば、大丈夫です。たとえば、企業公開情報に見る文化比較なども対象としても良いと思います。</p>
卒論の 使用言語	日本語
選考要件	登録届を提出するまでに個別面談を受けてください。留学中で直接面談できない場合は Skype か LINE などを用います。アポを取ってもらうための連絡先は説明会でアナウンスします。
志望者への 伝達事項	<p>私は、研究演習を単なる授業科目とは考えていません。研究演習いわゆるゼミは、教室内外の諸活動（合宿やゼミ懇親会あるいはフィールドワークや海外でのゼミ研修旅行など）を通じて、さまざまなテーマを論じながら、ゼミ生とゼミ生、ゼミ生とゼミ教員が交流を深め、生涯にわたって続くような友人作りができるような場だと考えています。</p> <p>本ゼミに応募するに当たり、経営学や会計学などの関連科目の内容を修得していることが望ましいですが、必須ではありません。学びたいという熱意と修得しようとする努力を持てるのであれば、応募ください。</p>

担当者	国宗 浩三
研究演習の テーマ	経済学、および個別国経済の研究
研究演習の 内容	<p>[何を?] 次のいずれかに関心のある人を求めます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>世界の国々の経済情勢</u>について（日本も含みます） *それぞれの関心に応じて対象の国や地域を絞り研究します ・ <u>経済の仕組みや原理</u>について *これから学びたいという人も歓迎します <p>[どのように?] 仲間とともに能動的に学びます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文献やデータなどを自分たちで<u>調べる</u>（グループ・ワーク） ・ 他の人にわかりやすく<u>説明する</u>（ゼミ発表） ・ 疑問点を<u>質問し、建設的な助言をする</u>（ゼミ討論） ・ 知識を整理して体系的な<u>論文を書く</u>（卒業論文） ・ 自分たちで<u>ゼミの運営</u>をする（自主性・リーダーシップの発揮） <p>[さらに] ゼミを通じて友人関係を広げ、共に<u>就活を乗り切ります</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3回生の終わりまでに各自の卒業論文のテーマを決めます （就活の面接の場などで、きちんと説明できるように準備します） ・ <u>大学院進学や公務員試験受験予定者</u>にも対応します
卒論の 使用言語	日本語、または英語（書きやすい言語で）
選考要件	ゼミの仲間と仲良く、共同作業ができる人。自ら考え行動することができる人。なお、申し込み多数の場合は選択届による書類選考を行います。
志望者への 伝達事項	<p>[主体的なゼミ運営]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>ゼミを1から作りあげる</u>ことに関心のある方を歓迎します。ゼミ行事（ゼミ合宿や懇親会など）も、ゼミ生自身で企画・実施してもらいます。 <p>[こんな先生です（自己紹介）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生時代にヨーロッパやアジアでバックパッカーの経験あります ・ インドのマクロ経済調査、アジア通貨危機の研究をしていました ・ 米国赴任の経験があります（IMFの客員研究員） ・ 専門はマクロ経済学、国際金融論、開発経済学、アジア経済論 <p>不明な点は、なんでも<u>気軽に質問</u>メールをください kunimune@kwansei.ac.jp</p>

担当者	小林 敏男
研究演習の テーマ	経営学研究
研究演習の 内容	<p>本演習は、企業及び産業の経営比較分析を出発点として、経営戦略論、競争戦略論等の経営学諸理論の観点から、企業及び産業の将来的な展望を考察することを目的としています。</p> <p>「研究演習Ⅰ」では、まず、経営分析を行うために必要となる財務諸表の理解を進めるとともに、組織、戦略、イノベーション、ビジネスモデル等に関する議論を行います。具体的には理論書を輪読し、クラス討議を経て内容指導を行います。</p> <p>「研究演習Ⅱ」では、産業、企業に関する具体的な経営分析を行います。分析の中心は、産業における比較研究となりますが、そうした分析をもとに、経営学諸理論を用いて、企業及び産業の将来的な展望を考察します。研究報告は、受講者各自の進捗度合に応じて行い、それらをもとに、卒業論文作成の指導を行います。</p> <p>本演習としての特長は、ビジネス界において必要不可欠な経営分析手法、及び経営学諸理論を修得できる点にあります。</p>
卒論の 使用言語	日本語
選考要件	<p>「志望理由書」をもとに、積極性や、ゼミの内容と研究したい内容の適合性などを考え選考しますので、志望理由、ゼミで挑戦したいこと、将来の進路希望、その他自己アピール等を記入してください。</p> <p>必要に応じて、面接を行う場合もあります。</p>
志望者への 伝達事項	<p>少人数クラスにおける全人格的教育を意識し、出席に関しては、無断欠席は認めません。理由等を明記したメール等による事前連絡は最低限の参加姿勢です。</p>

担当者	櫻田大造
研究演習の テーマ	北米地域研究（カナダ、アメリカの内政、外交、社会）
研究演習の 内容	<p>対象は広義のアメリカ・カナダの内政、外交、社会の研究ですが、日本との比較や日米関係のような感じでテーマをとらえてもらっても OK です。また、ゼミの時間にビブリオバトルも実施して、チャンプ本なども決めて行きますので、読書好きな学生には楽しいゼミとなるでしょう。3年次の春学期では、まずアメリカ・カナダについての基礎的なテキストを輪読し、討論していきます。そして夏休み中に秋学期発表用の自分独自のテーマを決め、基礎的研究を実施します。その結果を秋学期前の合宿と秋学期の授業時に発表して、討論し、学術的なゼミ論文を書いていきましょう。さらに、毎年12月ころには、櫻田ゼミ OB・OG 会を開催して、社会人として活躍している法学部と国際学部出身の先輩たちから仕事の話や就活情報を得ます。（就活相談には可能な限り応じます。）そのようなタテの関係を重視する櫻田ゼミでは、リサーチや発表のみならず、進路についても君たちの先輩などから色々と情報を得てください。</p> <p>4年次では各自のリサーチと卒論完成を目指しますが、9月には今度は3年の後輩諸君と合同ゼミ発表会をやります。テーマとしては、アップルはなぜ勝ったのか、日本食の対米進出、カナダとスエズ危機、アメリカ大統領就任演説の分析、アニメという言葉はいつ英語になったか、日米音楽市場の比較など多種多様でした。</p>
卒論の 使用言語	日本語
選考要件	英語が得意で読書好きな学生大歓迎。積極的にゼミに参加し、進路などもガンガン自分で動ける学生にとっては、非常によいゼミとなります。
志望者への 伝達事項	<p>志望理由書などをもとにやる気やゼミ内容と研究テーマのマッチング度などを加味して、選考します。選択届け（志望理由書）には、志望理由、ゼミでやりたいテーマ、将来進路、ほかにアピールしたいことを書き、さらにおすすめの本1冊とその理由も書いてくださいね。</p> <p>これまでに就職実績としては、NTT 西日本、三菱 UFJ 銀行、日立ハイテクノロジー、日本ゼオン、ダイハツ、日本生命、東レ、IHI、JR 東海、神戸製鋼、関西電力、兵庫県庁、関西学院職員、日本ガイシ、森永製菓、日立物流などがあります。ご質問は、メール sakurada@kwansei.ac.jpでも OK です。</p>

担当者	志 甫 啓
研究演習の テーマ	(経済・経営領域：国際的な人の移動研究) 国際化する私たちの生活の場・学びの場・仕事の場
研究演習の 内容	<p>未知の問題に直面したとき、大学で学んだ者に相応しい思考と判断ができるようになることが、本研究演習の最大の目標です。皆さんには、各々が設定した課題に取り組み、それをゼミ全体として一つの大きなテーマに総括する、そうした経験を通じて、卒業時には「問題を発見し、調べ、自分の頭で考え、想いを込めてそれを書き、人に納得してもらえよう伝える」ことのできる人間になってもらいたいと期待しています。</p> <p>本研究演習が取り扱うのは「人の移動」という極めて学際的なテーマです。経済学・経営学のみならず、他のアプローチにも関心を払う必要がありますが、国際学部の授業体系はそんな皆さんに最適な環境を提供していると考えます。</p> <p>研究演習Ⅰでは、人の移動を題材として、経済学の果たす役割と限界を体感してもらい、データに慣れ親しみ、必要に応じて統計学を学ぶこととします。その上で、人の移動が私たちの生活の場・学びの場・仕事の場を国際化させていることの背景要因や課題、期待についての知識と分析能力を身に付け、レポートをまとめます。</p> <p>研究演習Ⅱでは、そのレポートを発展させて卒業論文に仕立てていきます。同時に、各自の卒業論文を編集してゼミとしての報告書を作成するという共同作業に取り組みます。</p>
卒論の 使用言語	日本語または英語
選考要件	原則として「研究演習Ⅰ選択届」に記された志望理由等に基づきますが、メールでの応答を必要とする場合があります。
志望者への 伝達事項	<p>☆ ゼミを週一コマ開講される一般の授業と同様に考えないでください。サブゼミや懇親会、合宿等を含め、ゼミの正規の授業時間以外にも主体的に取り組む姿勢が求められます。傍観者的・フリーライダー的な態度での参加は認めません。世の中に必要とされる関学卒業生を目指し、自らを成長させたいという気持ちを持つことが大事です。</p> <p>☆ 国際的あるいは国内における人の移動に関心のある学生はもちろんのこと、漠然と（特に労働や雇用に関わる）経済・経営分野の勉強・研究をしたいと思っている学生も歓迎します。また、ゼミを通して語学力の向上に努めたいという学生を応援します。</p>

担当者	關谷 武司
研究演習のテーマ	グローバル時代における教育を通じた社会改革
研究演習の内容	<p>本ゼミでは、将来、国家公務員や国際機関職員、国際協力実践者・研究者、教育関係者として国際社会に貢献する日本発グローバルリーダーを育成することを目的とする。</p> <p>研究演習Ⅰでは、開発途上国における開発課題、特に教育に関する問題に焦点をあて、その関連書籍や日本の近現代期の教育史についての文献を課題図書とし、プレゼンテーションとディスカッションを中心に学習を進める。また、<u>グループで合同調査研究（海外調査を含む）を行い、分析・考察を加え、研究発表を行う。</u></p> <p>研究演習Ⅱでは、文献研究に基づいて各人の研究テーマを設定し、<u>必ず自分自身で調査を行い、独自データを収集する。</u>そして、結果を分析し、論理的に考察を展開する。その内容を卒業論文として執筆し、<u>研究発表を行う。</u></p>
卒論の使用言語	日本語
選考要件	<p>面接を実施するので、<u>出願前に必ず事前連絡を入れること。</u>また、面接前に、以下の書類を提出すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 成績証明書 語学力証明書
志望者への伝達事項	<p>本ゼミは、卒業生、大学院生も含めたゼミ関係者による学内外での自主活動を強く奨励している。卒業生まで含めたゼミ構成員の一人として自主活動に積極的に取り組める者を歓迎する。（例：各種自主セミナー企画・運営、国際協力プロジェクト企画・運営、自主研究・書籍執筆など）</p> <p>演習を選択するまでに「国際情報分析」、「教育開発論」、「プロジェクトマネジメントⅠ」を受講していることが望ましい。</p> <p>希望者多数の場合、以下のような学生を優先する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ゼミの自主活動に優先的に取り組む者 ● 上記の推奨科目受講者 ● 「国際ボランティア（国連ユース・国際社会貢献）」を目指す者 ● 国家公務員あるいは国際協力機関従事者、国際協力研究者等を志して大学院進学を考える学生

担当者	高村 峰生
研究演習の テーマ	近現代における英米文学・文化
研究演習の 内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 近現代の英米文学 2. 比較文学 3. 写真、映画、音楽などのメディア論、芸術論、表象文化論 4. 批評理論・現代哲学 5. 翻訳 <p>上のような幅広い課題について一通りの指導を行うことができるが、担当教員の一番強い専門分野は 20 世紀の文学と映画であり、ゼミ演習でもその分野を重点的に扱うことになる。文学分野については、詩や演劇よりも小説の方が中心となる。</p> <p>3 年ゼミでは英語で書かれた短編小説を読むか、映画を見ることを毎週の課題として課し、クラスではそれに基づいたディスカッションを行う。英語の読解力を磨き、文学の表現技法や映画の撮影技法などについて考察するとともに、英国圏の文化や歴史、習俗についても総合的に学ぶ。4 年ゼミでは受講者の卒論を視野に入れて演習の内容を決めていき、後期には卒論のライティングの技法について具体的な指導を行う。</p>
卒論の 使用言語	英語または日本語
選考要件	<ul style="list-style-type: none"> ・英語力ならびに文化や文学に対する関心の度合いを重視する。 ・希望届提出前に面接する。下記アドレスに連絡してください。
志望者への 伝達事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミのディスカッションは基本的に日本語で行いますが、長い英語の文章を読む力は必要です。予習と出席は必須です。 ・英語・日本語問わず、読むこと自体が嫌いな人には向きません。 ・課題以外にも、自発的に好きなことをとことん探究するタイプの人は歓迎します。 ・国内外の大学院進学を視野に入れている人にアドバイスできます。 ・英語力は確実につくと思います。個々の学生の弱点について適切にアドバイスします。 ・ゼミに関心のある方は個別に相談に乗りますので、mtakamura[at]kwansei.ac.jp まで連絡してください。

担当者	長友 淳
研究演習の テーマ	グローバル化と人・文化・社会 ―文化人類学的・社会学的視点から
研究演習の 内容	<p>研究演習Ⅰ・Ⅱではグローバル化という現象について、文化人類学および社会学的視点から研究します。柱は3つ設定しています。1点目は移民や観光客など「国境を超える人の流れ」に関する研究、2点目は国境を超えるメディアや文化、あるいは観光と文化の関係などの論点を含む「文化の越境プロセス」に関する考察、3点目は国家とナショナリズム、あるいは移民とローカル住民の相互作用などの論点を含む「グローバル化と社会の関係」に関する研究です。</p> <p>研究演習Ⅰ（3年生）では上記の3点に関わる文献講読を行います。各自担当分を学期中に1～2回発表し、理論的基礎を築きます。</p> <p>研究演習Ⅱ（4年生）では上記3つの大テーマのいずれかに当てはまる形で、より詳細な卒論テーマを各自設定し、調査を行った上で卒論執筆を行います。定期的に進捗状況をゼミ内で発表する形で計画的な卒論制作を行います。また4年次には、ゼミ合宿および卒論発表会を予定しています。</p> <p>2年間を通して、他大学との合同ゼミや、合宿、研修旅行等の各種行事を実施し、ゼミ生の人間的なつながりも大切にしたい活発なゼミ運営を目指します。</p>
卒論の 使用言語	日本語。希望者のみ英語。
選考要件	特になし
志望者への 伝達事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミは大学教育の根幹であり社会教育の場でもあるため、全回出席が原則。ゼミの各種行事への積極的な参加も重要です。また、ディスカッションにおける積極的な姿勢や発言を期待します。 ・2年次までに「文化人類学基礎」を受講しておくことが望ましいです。

担当者	長谷 尚弥
研究演習のテーマ	応用言語学・言語教育・英語教育・第二言語習得・言語全般・言語と文化
研究演習の内容	<p>この研究演習のテーマは応用言語学（ここでは言語教育学とほぼ同義に用いる）です。英語の教職免許取得を目指している学生、将来中学や高校、大学の英語（外国語）教員を目指す学生、応用言語学の分野での研究者を目指す学生をはじめ、広く言語全般や言語教育、言語学習に興味・関心を持つ学生を対象とします。</p> <p>3年次には、この分野の基本図書（英書）を輪読することで基本的な知識を身につけると同時に、受講生の興味・関心に応じてこれまで行われてきた主な研究を概観します。また、研究手法に関する基本的な勉強も行います。皆さんが各自の研究テーマ（卒業論文のテーマ）を見つける、あるいは絞り込むことがこの時期の目標です。</p> <p>なお、本ゼミの研究テーマに関しては冒頭に書いた通りですが、ゼミ生各自のテーマに関しては、比較的柔軟に考えたいと思います。</p> <p>4年次には、各自が自分の研究テーマに沿って研究を進めていきます。毎週のゼミは各学生の研究の進捗状況についての発表とそれを巡るゼミ生同士の議論を中心に進められます。</p> <p>研究を進めるにはゼミ生同士の有益な議論が必須です。そのためにも、このゼミでは懇親会やゼミ合宿を行い、勉強と同時に親睦の場も大切にしたいと思います。</p>
卒論の使用言語	日本語・英語
選考要件	基本的には書類選考としますが、必要に応じて面接を実施することがあります。
志望者への伝達事項	<p>言語・言語学習・言語教育に興味のある人、みんなで楽しく、かつ真剣に議論しながら研究を進めたいと考えている人を募集します。なお、可能な限り、2年生を終えるまでに「Introduction to Applied Linguistics」と「第二言語習得論」を履修しておいてください。</p> <p>このゼミは教職課程履修者を主な対象としていますが、そうではない人、卒業後に教職以外の進路を考えている人も歓迎します。</p> <p>質問等がある人は長谷（nhase@kwansei.ac.jp）まで連絡をください。</p>

担当者	ブングシェ・ホルガー
研究演習のテーマ	ヨーロッパの高級商品産業：ファッション（アパレル）、自動車、食料品、サービスを中心に
研究演習の内容	<p>本研究演習はヨーロッパにおける高級品産業と高級商品ブランド・メーカーを研究する事に狙っている。</p> <p>EU 委員会の企業と産業総局によると、ヨーロッパで生産されている高級品は世界市場の 70%を占めている。ヨーロッパの高級品はファッション、バック、靴などのアパレル商品、時計、高級車、ヨット、デザイン家具そしてデザイナーブランドの家庭用品などの製造産業の商品である。その 70%にホテル、レジャー、レストランなどのサービス産業のサービスも、そして食料品産業の商品、すなわちヨーロッパで生産されているチーズ、ワイン、シャンパン、ブランデー、ウイスキーなども含まれている。</p> <p>本研究演習は産業論、地域産業論、競争戦略論、国際企業経営論などの理論に基づきヨーロッパの高級商品産業又は企業を研究し、ケーススタディのアプローチにより分析する。</p> <p>なぜヨーロッパの高級商品産業は強いのか、ヨーロッパの高級商品産業はどのような条件に基づくか、企業はどのような戦略を実施しているかというテーマを研究するのは本研究演習の目標である。</p>
卒論の使用言語	日本語、英語
選考要件	希望者の人数により「面接を実施する」
志望者への伝達事項	<p>EU 政策、ヨーロッパの経済、産業と企業、又は国際企業経営論、競争戦略論の授業を取ることをお勧めする。</p> <p>外国語で書いた資料を読める外国語能力が望ましい</p>

担当者	寶劔 久俊 (ほうけん ひさとし)
研究演習の テーマ	現代アジアの経済発展
研究演習の 内容	<p>本演習の目的は、経済・経営に関する様々な分析ツールを用いて、アジア地域（東アジア、東南アジア）の経済発展を考察するための方法論を身につけることにあります。アジア諸国が急速な経済発展を実現してきた要因と、それらの国々が直面する課題（中進国の罫、人口の高齢化、所得格差、環境汚染など）を体系的に理解するためには、経済学や経営学に基づく経済構造の考察に加え、アジア諸国の政治や社会、そして各国の歴史についての知識を深めていくことが求められます。</p> <p>研究演習 I では、アジア経済論や開発経済論、あるいは多国籍企業の国際経営に関する教科書の輪読を行い、基礎力の強化を図るとともに、ゼミでの報告の仕方や議論の進め方を学びます。また、参加者の人数や希望に応じて、グループでの研究報告も実施していきます。研究演習 II では各自の研究テーマに関する報告を行い、卒論に向けた準備を進めてもらいます。</p>
卒論の 使用言語	日本語を基本としますが、英語での卒論執筆も認めます
選考要件	書類選考によって行います（出願時の成績も加味）
志望者への 伝達事項	<p>アジア経済や経済学の科目（国際金融とアジア太平洋、中国企業経営、中国経済論、ミクロ経済学、マクロ経済学、開発経済学など）を受講していることが望ましいですが、それらの講義を未受講でも、自ら学習する意欲のある学生を歓迎します。研究演習の履修を通じて、アジア地域の現地語（中国語、韓国語、タイ語など）の基礎を学ぶよう努めて下さい。また、中国以外の東アジア地域（日本、韓国、台湾、香港）や ASEAN 諸国の経済に関心を持つ学生の履修も歓迎します。</p> <p>真剣に楽しく学べる場になるよう、ゼミ合宿や合同ゼミの開催、海外研修（香港フードエキスポへの参加、中国の大学生・大学院生との交流など）も計画しています。ただし、演習での遅刻と無断欠席については厳しく対処しますので、履修にあたっては心して臨んで下さい。</p>

担当者	丸楠 恭一
研究演習の テーマ	世界の中の日本
研究演習の 内容	<p>研究演習Ⅰの目的は大きく2つあります。その第一は、日本という存在を世界的国際的文脈の中で理解する能力を養うことです。このために必要な文献を読み進んでいきます。インターネットやSNSなど速いメディアが発達している現代だからこそ、活字メディアから得た知識をもとに自分の頭の中で考えを熟成させることが大切だからです。本ゼミで取り扱う文献のジャンルは、政治学、経済学、社会学、歴史学などかなり広範な分野にわたりますが、特に戦後政治社会史に関する基礎的理解を得ることに役立つ文献を含める予定です。文献の言語は日本語のものが中心となりますが、英語文献を取り扱うこともあります。こうした文献の講読を通じ、ゼミ生各自が自分なりの「日本を切る切り口」を発見し、それに関するディシプリンを自ら修得してもらうように指導します。</p> <p>第二の目的は、第一の前提条件として、論理的に思考し他者を言語で説得する能力を高めることです。これは、論文を書くにせよ、プレゼンを行うにせよ、その基本となります。この目的に沿って、研究演習Ⅰでは、グループによるテーマ研究及びプレゼンテーション演習などを行います。</p> <p>研究演習Ⅱの目的は、研究演習Ⅰの成果を踏まえ、ゼミ生各自が各々の卒業論文のテーマを選び、卒業論文作成のために報告を行い、ゼミ生相互に議論を行うことを通じて各自の問題に関する理解を深め、分析力を養うことです。</p> <p>こうした方針に沿って、3年次にはまずグループによるテーマ研究を実施し、次いで日本を学ぶために重要と思われる文献について、基本的なテキストを選定して適宜プリントで補いつつ、日本を理解する基本的な視座の醸成に努めます。テキスト講読に当たっては、テキスト評論の技法をきちんと身につけてもらうことを目指します。ゼミ生の問題関心や要望等を勘案し、学外における実習・演習を行うことも考えています。また4年次は、現代日本に関する最近の著作を多読していくとともに、各自の選択した卒業論文のテーマに向けての学習・分析を進め、その報告を中心にゼミを運営していきます。</p> <p>また、3、4年合同による会合・合宿、他大学との交流等も積極的に実施しています。2017年度は、6月に奈良、8月に長野で明治大学、中央大学、関西大学等と合同でインカレ合宿を実施しました。</p>
卒論の 使用言語	日本語
選考要件	選考期間中に、選択届の内容を補足する質問をメールにより行うことがあります。
志望者への 伝達事項	<p>本演習は「日本」を主な課題として取り扱うことが多いですが、その問題意識の背後には現代国際社会に関する理解が前提として存在しています。また、日本以外の国・地域・文化などに関心がある方も、その関心が十分満たせるように構成しています。</p> <p>また、ゼミの性格上、ゼミ生各自が関心を持つ学問分野が多岐にわたる可能性が高いと思われます。その際、自分自身のテーマにのみ関心を持つのではなく、ゼミの他のメンバーの問題関心に対しても興味を持ってそれを理解しコメントしようとする学習姿勢を持つようにしてほしいと思います。本演習のポリシーは「ゼミとは、教員が知識を伝達する場ではなく、学生同士の相互刺激による化学反応の場である」ということです。志望者は、そうした認識を共有する方であってほしいと思います。</p> <p>真剣勝負の、活気ある、それでいて楽しいゼミにしたいと思います。</p>

担当者	三宅 康之
研究演習の テーマ	現代中国の政治と外交
研究演習の 内容	<ul style="list-style-type: none"> ・中華人民共和国をはじめとする「中華圏」の政治・外交に関するテーマの卒論執筆を目指すゼミである。 ・本ゼミでは次の3つの目標を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 卒論執筆に必要な知識を蓄積すること (2) 多角的、学際的な視点を得ること (3) 情報収集、要約、発表、討論などのスキルを磨くこと ・具体的には、2年間で次のような作業を行う。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 3年次春学期には、基礎知識を共有するため、中国政治外交についての教科書を輪読し、報告ならびに質疑応答を行う。 (2) 3年次中に2～3度、学内および他大学とのゼミ交流を行う（現時点では同志社大学、立教大学、慶應義塾大学、東京外国語大学などを予定）。ゼミ交流の際に、ゼミ旅行・合宿も行う。 (3) 3年次中のゼミ内での報告やゼミ交流の際の研究発表の分担を通じて、卒論のテーマを確定させていく。3年次秋学期から4年次開始にかけて関心のあるテーマについての基礎的な文献を複数読みこみ、取り組むべき問題を絞り込んでいく。 (4) 4年次は卒論指導を主とするが、ゼミ交流にも引き続き参加する。
卒論の 使用言語	原則日本語だが、英語も事情に応じて可とする。
志望者への 伝達事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「中国現代史」、「中国の政治と外交」をすでに受講しているか、並行して受講することが望ましい。 ・その他、政治学、国際関係論 and/or 中国経済に関する講義などを、できれば複数履修していることが望ましい。 ・中国語習得・履修はゼミ履修の必要条件ではないので、他言語・北米コース選択者でも遠慮せずに参加されたい。 ・報告・発表の際には、担当でなくとも事前に準備し、議論に参加すること、最終的な卒論執筆に当たっては日本語、英語、中国語などのうち、最低2言語の文献を使用することが強く期待される。

担当者	宮田 由紀夫
研究演習の テーマ	アメリカ経済
研究演習の 内容	<p>アメリカの経済を歴史、金融・財政政策、競争政策、イノベーション・企業戦略の面から研究します。</p> <p>3年生の時はアメリカ経済に関するテキスト（経済政策概論、大学スポーツ、航空宇宙産業）の輪読を行います。春学期と秋学期それぞれで輪読に並行してグループプロジェクトして特定の産業の分析を行い、グループでの口頭発表とそれを基にした個人レポートを書いてください。</p> <p>4年生の時は春学期に卒論に関する文献を精読し、秋学期には卒論を執筆します。</p> <p>授業で読む文献は日本語ですが、必要に応じて英語の文献（記事・論文のコピー）を推奨し、読んできてもらいます。</p> <p>卒論のテーマはアメリカ経済に関することならば何でも可能です。「アメリカの音楽について」や「アメリカ大リーグについて」というのは認めませんが、「アメリカ音楽産業について」「アメリカのプロスポーツ産業について」ならば可能です。</p>
卒論の 使用言語	日本語（事前に許可を得れば英語も可）
選考要件	書類選考
志望者への 伝達事項	ゼミ旅行、合宿、飲み会はありません。所定の授業時間にきちんと出席することに努めてください。経済学の知識は不要ですが、英語が苦手な人には志望を勧めません。

担当者	油井 美春
研究演習のテーマ	アジアを中心とした開発途上地域の社会と文化
研究演習の内容	<p>本演習では、アジアを中心とした開発途上地域、とくに南アジアおよび西アジア諸社会が抱えてきた民族、宗教、文化などの多岐にわたる課題を対象として研究に取り組みます。卒論執筆に際しては、的確な知識と技法を身につけて、受講生自らがテーマを見出し、問題解決を導くための分析力を修得することを目標とします。</p> <p>本演習の具体的な目的として、①事実とデータに基づいて論理的に考察する力を身につけること、②学際的なアプローチによって課題を分析すること、③資料収集・解読、プレゼンテーション、発問、ディスカッションなどに関するスキルの向上、が挙げられます。</p> <p>受講生には、指定する日本語および英語文献の輪読と内容報告、レポートの作成、卒論テーマの設定、卒論執筆に必要な資料収集・解読、発表などに取り組んでもらいます。対象地域や問題関心にに基づき、フィールドに出て聞き取り調査や参与観察に取り組みたい学生も歓迎します。</p> <p>【主な対象地域と問題関心群の例】</p> <p>南アジア、西アジア、BRICS、イスラーム世界、民族、宗教、文化、共生、経済成長、格差、教育、安心・安全な社会（ただし、これら以外の地域、イシューに関心を持つ学生の参加を制限するものではありません）</p>
卒論の使用言語	原則として日本語、事情に応じて英語も可
選考要件	<p>選択届による選考 （選択届には提出時点での関心のある地域と事象について明記する）</p>
志望者への伝達事項	<p>受講生には、日常的に新聞の国際面やニュースなどに目を通し、アクチュアルな課題への認識を深め、応用していく思考力が求められます。受講生の問題関心や要望を考慮し、広く多様なイシューを扱う可能性が高いため、主体的かつ積極的な姿勢での参加を望みます。また輪読回では事前に指定教科書の該当するページを読み込んでくること、関連した事柄について事前に調べ、掘り下げた議論を展開することが求められます。卒論執筆にあたっては、日本語および英語の文献を解読し、学際的なアプローチによって、議論を展開することが期待されます。</p> <p>無断欠席、報告ドタキャン、課題の提出遅延・未提出は厳正に対処します。</p>

担当者	尹 盛熙
研究演習のテーマ	言語と言語学の理解
研究演習の内容	<p>言語学の視点から、言語の普遍的・個別的特性や仕組みに対する理解を深め、それを基に自分自身のテーマを見つけることを目的とする。</p> <p>我々が日常的にコミュニケーションの道具として使っている「ことば」は、社会の様々な面と密接に関わり合っているため、ある社会を理解する上で非常に有効な切り口となる。このゼミでは、日本語や韓国語など、異なる個別言語における様々な現象を取り上げ、それらを捉える言語学の考え方を学び、さらに関連する隣接分野（通訳・翻訳や外国語教育など）についても考える。</p> <p>研究演習Ⅰでは、参考文献・論文などを輪読・討論し、様々な言語学の基礎知識に触れ、「ことば」を学問の対象として捉える考え方や、関連する文化社会的な背景などに対する理解を深めるとともに、言語研究の手法と論文作成の基礎を学ぶ。すべての参加者には、文献を読んでレジюмеを作成し、その内容を要約発表することが求められる。</p> <p>研究演習Ⅱでは、各自が興味を持つ分野の研究を進め、自分の課題を浮き彫りにさせ、卒業論文のテーマ選定につなげることを目指す。テーマに合わせた研究手法と論文作成の訓練が中心内容となる。参加者は具体的な言語現象に焦点を当てた「リサーチ・クエスチョン」を設定し、データの収集と分析を進め、経過を発表することになる。</p>
卒論の使用言語	日本語のみ
選考要件	選考が発生する場合、関学のメールアドレス宛にメールで個別に告知する。
志望者への伝達事項	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に「言語」に高い関心のある人を対象とする。 ・言語学関連の授業は、できるだけ履修しておくこと。 ・基本的に具体的な言語データの収集と観察を行うことになるが、その際に必要となる Word や Power Point、Excel などの基本的なソフトの使い方に慣れておくこと。また、課題提出や授業連絡などはルナで行うので、使い方に慣れておくこと。 ・欠席・遅刻及び発表の無断欠席や課題の未提出などの不誠実な態度には<u>極めて厳しく対応するので、そのつもりで参加すること。</u>

担当者	吉村祥子（よしむら さちこ）
研究演習のテーマ	国際法の諸課題（2021年度前期）／国際制度の諸課題（2021年度後期） ／卒業研究（2022年度）
研究演習の内容	<p>研究演習Ⅰにおいては、今日の国際社会を規律する国際法・国際機構の概要と、諸課題について学修します。前期は、国際法の総論・各論双方について、テキストの輪読及びディスカッションを通じ、国際社会の諸課題に対して国際法がどのようになっているのかを学修します。また、後期は、国連などの公的な国際制度における諸課題について、文献の輪読やディスカッション、関連文献などを通じて学修します。ゼミの人数が多い場合には、模擬国連などのシミュレーションを行うことも可能です。</p> <p>研究演習Ⅱにおいては、新聞記事や論文などを用いて、近年の出来事に関連する国際法・国際制度の諸課題について研究する予定です。そして、各自が国際法あるいは国際制度に関連する卒業論文のテーマを選び、研究報告などを行った後、卒業論文を作成してもらいます。</p> <p>近年は、国際法・国際機構論を勉強・研究している他大学との学生との合同ゼミ（2015年度からは神戸大学海事科学部・神戸市外国語大学との合同ゼミ、2016年度からは大阪大学との合同ゼミ）を行っています。内容はグループ研究報告（3年生）や卒論報告（4年生）で、プレゼンテーションの練習になる他、他大学学生の様子も知ることができる良い機会になっているようです。</p>
卒論の使用言語	日本語・英語いずれかで可。
選考要件	<p>提出された書類に基づき選考します（面接等はありません）。</p> <p>大学において、国際法や国際機構論を自分の専門としてしっかり勉強することを希望し、授業に積極的に参加する学生が望ましいです。</p>
志望者への伝達事項	<p>可能であれば、ゼミに関連する科目を履修することが望ましいです（必須ではありません）。</p> <p>よく学びよく遊ぶ、意欲的な学生を希望します。また合同ゼミや合宿などをする場合には、多少準備や本学以外の先生方や学生さんと連絡をとる機会もあるので、協力しあいながら進めていける学生が望ましいです。</p> <p>わからないことがある場合、吉村の演習選択届専用メールアドレス：yoshimurasachiko@gmail.com に氏名・学籍番号を記載の上お問い合わせ下さい。</p>